

iPad を活用した活動報告書(魔法のふでばこ) 安来市立赤江小学校

1. 基本情報

(ア) 報告者氏名：井上 賞子

(イ) 報告書記録日：平成 25 年 2 月 22 日

2. 対象児

(ア) 対象児

- ・ B児⇒5 年/11 歳「読み・書き」両面での困難が大きい。「書き」については、お手本を見ながらなら書けるが、簡単な漢字でも定着が進まない状態が続いていた。4 年時から iPad を使った介入を行ってきている。今年度は、前年度に行っていた「書き」への支援に加えて「読み」を支える手だてを行った。
- ・ D児⇒2 年/7 歳「読み・書き」両面での困難が大きい。「書き」については、文字を構成している線の関係や方向性がとらえにくい。1 年時から iPad を使った介入を行ってきている。今年度は、漢字への取り組みを行った。また、「読み」に対しては、読み上げを学習の中に取り込んでいくことを行った。

3. 活動目的

(ア) 当初の目的やねらい

○B児について

- ・ 自力解決の手立てを持つことで、くり返して学習していく意欲を支える。
- ・ 手立てを持ってやりきる、やり終える体験をくり返す中で、課題解決への見通しが持てるようにする。
- ・ 確認しながら正しく繰り返す中で、課題の定着を図る。

○D児について

- ・ 苦手さを補う学習の手立てを持つことで、学びやすさを支える。
- ・ 正しく繰り返す中で、課題の定着を図る。
- ・ 学びきれぬ方法を持つ事で、自己解決への自信につなげていく。

(イ) 実施した期間：23 年 4 月から 25 年 2 月まで

(ウ) その活動の実施者：井上 賞子

(エ) 実施者と対象児との関係：担任

4. 活動内容と対象児の変化

(23年度からの経緯を記載しているため、前半は昨年度の報告と重なります)

B児について

(ア) 事前の状況

○読み書きにかかわる状況

【1. 2年生のころ】

- ・ ひらがな・カタカナの書きもあやふやな状態

【個別指導開始（3年生になってから）】

- ・ 漢字の書き順を間違えて覚えているものが多い。
- ・ 語彙が少なく、読めてもイメージできないことがある。
- ・ 文章を書くときに、漢字を使うことができない。
- ・ 特殊音節の表記を間違えることが多い。
- ・ 音読は苦手で、やりたがらない。
- ・ ルビをふって読むが、なかなか定着しない。
- ・ たどたどしく読むため、なかなか意味理解につながっていかない。

【3年の終わり】

- ・ 見て書くことはできるが、文章を書く際に思い出して書くということには難しい。
- ・ 毎日書くような字でも、なかなか定着しない。(毎日同じ字を直していた)
- ・ 「今日」は漢字で書くようになってきた。
- ・ 「ここは漢字だよ」では直せず、メモや横に赤ペンでお手本を書くのを直してこれた。
- ・ 「直す」ことが嫌いで、「ここを直そう」と言われると涙が出たりぐずり始めることもよくあった。

(イ) 具体的内容

☆「書き」の困難に対してのアプローチ

○使用したアプリ



○大辞林

- 手書き入力を利用して、
- ・ 読み方がわからない時
 - ・ 漢字がわからない時
- 自分で調べて解決につなげる。

メインで使用

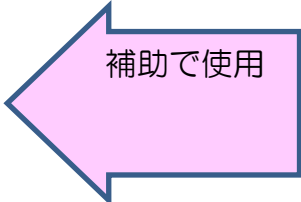


○筆順辞典

- 大きな表示を利用して、
- ・ 視覚的に確認する。
 - ・ なぞって、線の位置関係や数を体感して確認する。



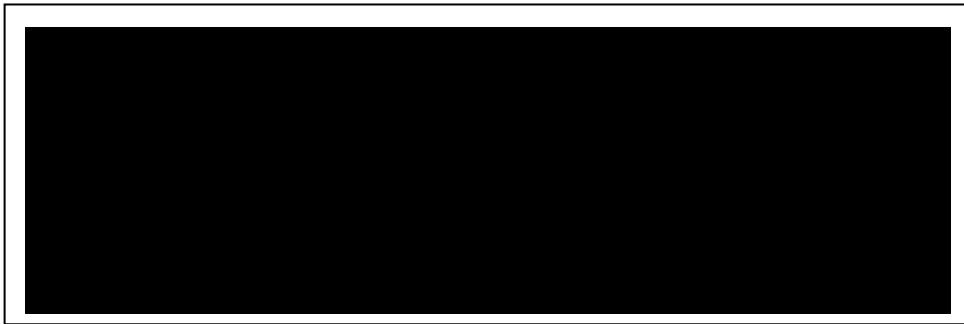
○7notes for iPad
 手書き入力を利用して、
 ・漢字がわからない時
 自分で調べて解決につなげる。



○使用場面

- ・朝活動後の宿題を直す時（主に週末日記）
- ・連絡帳の振り返り日記を書く際
- ・国語の時間、漢字学習の場面

○具体的な使用状況



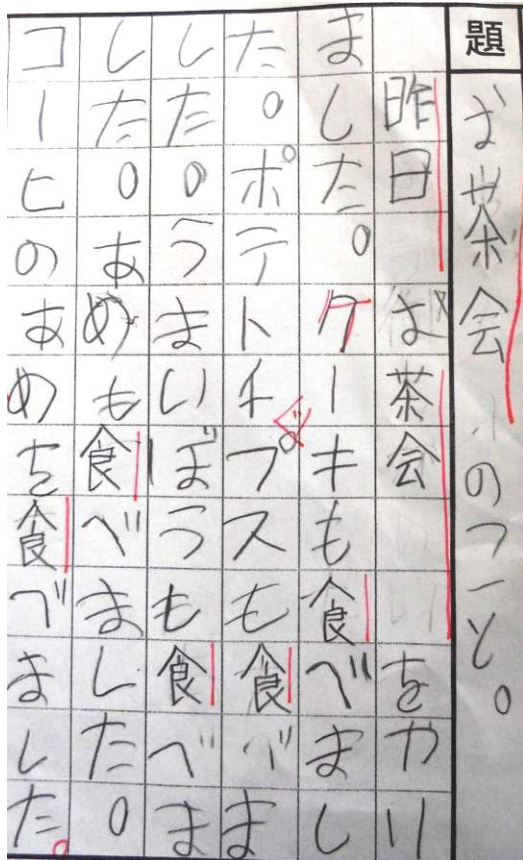
・週末日記を直している様子

提出された日記

コ	し	た	ま	題
し	た	た	し	ま
ヒ	〇	〇	ホ	た
の	あ	う	テ	〇
あ	め	ま	ト	ク
め	も	い	キ	チ
を	た	ま	プ	キ
た	べ	う	ス	も
マ	ま	も	も	た
ま	し	た	た	べ
し	た	べ	べ	ま
た	〇	ま	ま	し



漢字に直す部分に赤線を引き、iPadと一緒に渡す



自分で調べて、書き直す

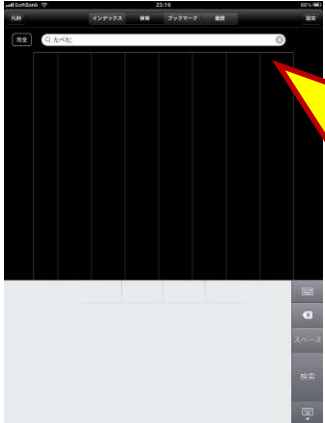


・連絡帳の振り返り日記を直している様子



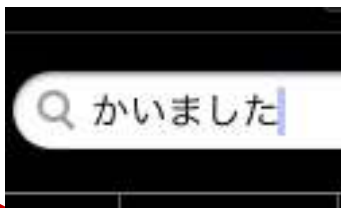
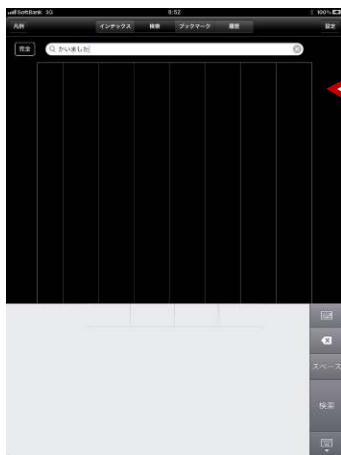
漢字だけでなく、カタカナの表記も調べられる。

※困ったこと①



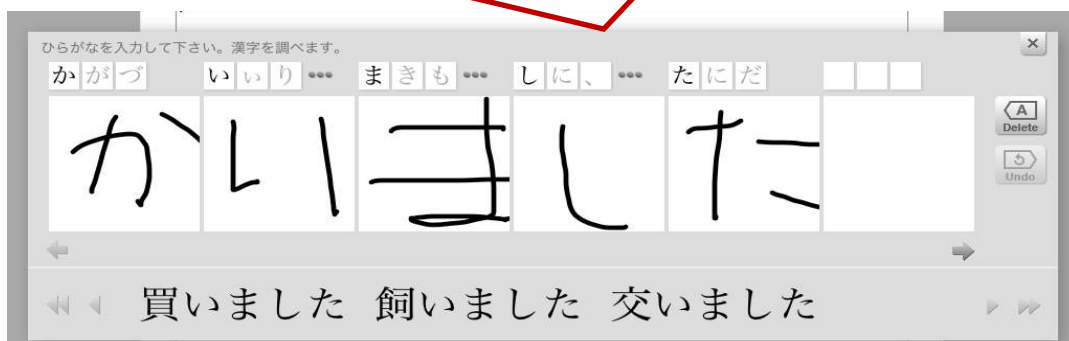
「食べた」で調べたくても、候補が出てこない。「食べる」なら出てくる。調べたい言い方で出てこない、どうしていいのかわからなくなる。

・そんな時は 7notes

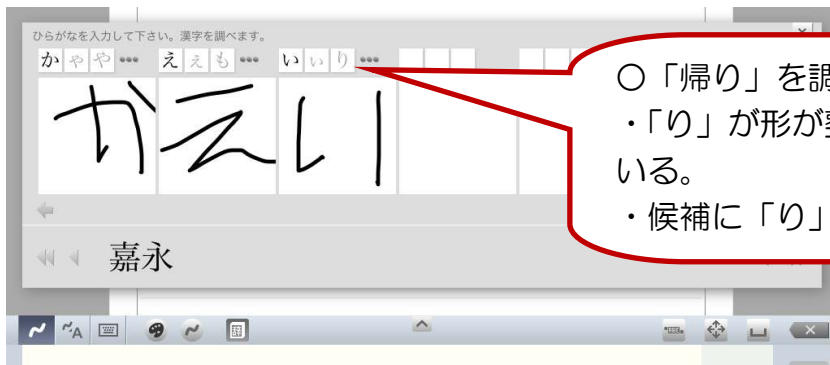


大辞林で「かいました」を調べようとする、表示されない。
「かい」にすると、何十も候補が出てくる。

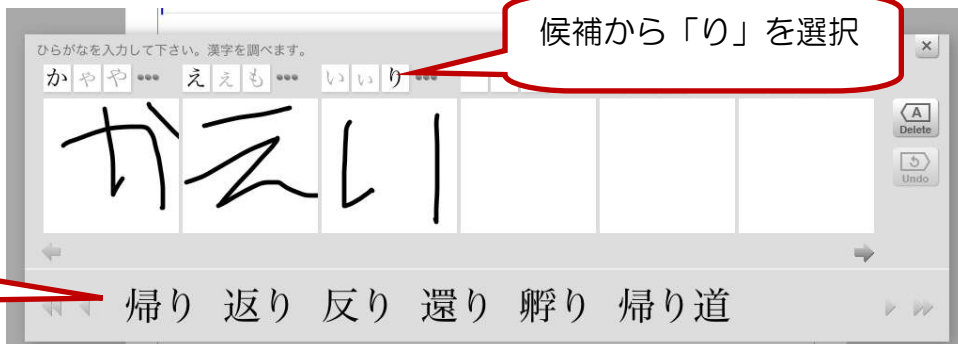
7notes の手書きで辞書機能を使うと、文章に使っている表現のまま調べられる。



・文字の形が整わなくて、間違って認識されてもすぐ直せる。



○「帰り」を調べたいとき
・「り」が形が整わず「い」と認識されている。
・候補に「り」が出ている。



「帰り」が出た。

候補から「り」を選択

帰り 返り 反り 還り 孵り 帰り道

※困ったこと②



書き順が違っていると、候補が出てこない。
「お」と入力したいのに、「お」が出ない

・そんな時は筆順辞典

- ①漢字の書き順が違って、大辞林で読み方を調べられない。
- ②手書きで入力
- ③表示に合わせて、なぞり書きして確認
- ④筆順辞典の音訓表示で調べる。



・ひらがなシートも活用

- ① ひらがなの書き順が違って、大辞林で漢字を調べられない。
- ③入力しなおす

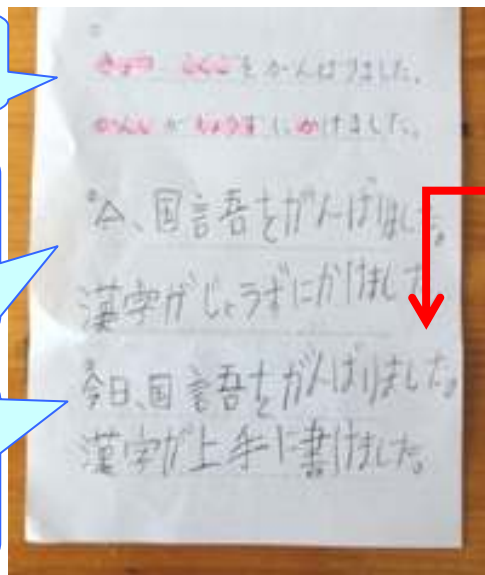


・さらに定着に向けて「3回短文プリント」

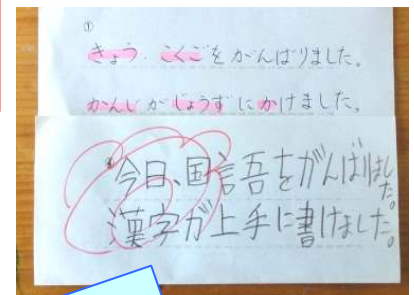
①ひらがなで課題になる文を書いておく

②課題を見ながら、まずは思い出して書いてみる。わからないところはひらがなのまま

③わからなかったところ、間違ったところを大辞林で調べて、正しく書く



ここを折り返して、②③が見えないようにして思い出して書く



②③で書いた正しい漢字を思い出しながら書く。わからなくなったら、③を見返してもいい。

(ウ) 事後の変化：

・大辞林を使って、漢字の読み書きを調べてドリルに取り組んだり、作文を書いたり直したりする際、筆順が違ふと表示されないことがあるため、今までなかなか改善が見られなかったひらがなの筆順にも意識が持てるようになってきた。

・「自分で調べる」ということができるようになり、漢字を使う意欲が高まっている。

・7notesだと候補から選べるので、形が崩れた文字でも調べられるため、1人で調べ切ることができた。

・「調べたい」という意欲を持って、「筆順辞典」を使って、筆順をなぞって確認することで、今まで「直そう」と言って直させていた時に比べて格段に筆順を意識できるようになった。

☆漢字を日記の中で使ってくるようになり、「すごいね」とほめると、「だって思い出せるもん」と言った。

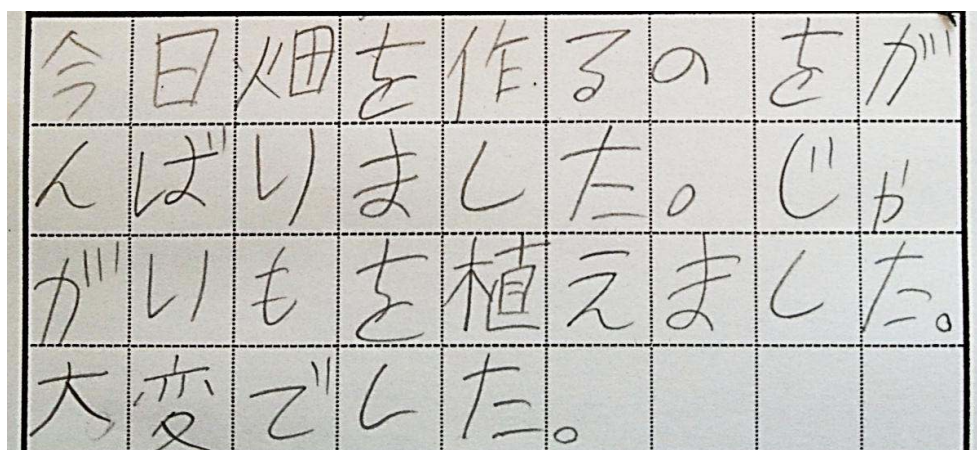
・iPadを導入するまでも、もちろん漢字の直しはしていたが、自力で調べたり思い出したりすることが難しかった。

・赤ペンで直したり、メモに書いたものを渡したりして直していたが、毎日のように同じ字を直していても、なかなか定着しなかったのが、調べて書くことを繰り返す中で、思い出して書ける文字が増えている。(具体的な量の変化は、5に示した)

・iPadを使って「自分でできる」という自信がついてきたように感じられる。

・直すことを以前のように嫌がらず、進んで調べたり直したりするようにもなっている。

・以下は、iPadでの学習を初めて1年後の4月23日の振り返り日記。聞かず、調べず、すらすらと書いた。「自己解決の見通し」を持って繰り返す中で、日常的に良く使う漢字は、定着がすすんできている。



☆「読み」の困難に対してのアプローチ

○使用したアプリ



i暗記

- ・単語帳が作成できるアプリ。
- ・出来上がったもので練習するだけでなく、入力すること自体も活用して読みの定着につなげる。

○使用場面

- ・国語の時間、新単元に入る前にデッキを作成。
- ・毎日の家庭学習の音読の前に、単語帳として練習。

○具体的な使用状況

- ・新出漢字をドリルを見ながらカードにしていく
↓
- ・新しい単元を全文音読
↓
- ・読めなかった熟語をカードにしていく
↓
- ・家庭学習で、カード練習に取り組む。
↓
- ・カード練習後、その単元の音読に取り組む。



入力時

- ・ドリルや教科書を見ながら入力。
- ・入力するために、対象の熟語をなんと読むか「音」にして繰り返し想起する様子が見られた。

例) 「招く」というカードを作る際

- ・カードにする熟語を確認「招く」
↓
- ・なんと読むかを確認して、カードの表を入力「まねく」
↓
- ・出てきた候補の中から、熟語を探して選ぶ「招く」
↓
- ・カードの裏に読み方を確認しながら入力「まねく」

繰り返し
「音」を意識!!

※カードを作る際に、繰り返し「まねく」という熟語の読み方を確認し、さらに打ち込むことで、この作成段階でかなり覚えてしまう姿が見られた。

カード練習時

- ・ わかったカードは上へ、わからなかったカードは下へと振り分けていける。
- ・ 再挑戦する際は、わからなかったカードだけが表示されるので、見通しが持ちやすく、繰り返す意欲にもつながっている様子だった。



(ウ) 事後の変化：

- ・ 以前は、漢字練習をしても、今練習した漢字の読みを今答えられなかった。
- ・ 担任が作った漢字カードを練習に使っていたこともあるが、「答えを見て確認していい」というルールでくり返していても、なかなか定着していかなかった。
- ・ それが、ドリル作成の段階で何度も漢字と読みを見比べて確認することで、まず練習してすぐのものが答えられるようになっている。
- ・ また、iPad を持ち帰って、家庭でも宿題として読みの練習をすることで、以前なら考えられなかったような漢字を読める場面も増えている。
- ・ 単元に入る前に新出漢字をこの方法で学習しておくことで、音読もスムーズになってきている。
- ・ 音読の際、もごもごと小声でごまかす事がなくなった。
- ・ 休憩時間に、漫画や図鑑やことわざなどの本を読む姿を見かけるようになった。
- ・ 漢字が読めるようになって、音読の流暢性が驚くほどあがっている。また、それに伴って、意味理解もスムーズになって来た。
- ・ 新しい単元に入る一週間前程度からこうした取り組みを繰り返しておく事で、学習がスタートした時には、5年生の教科書がほぼすらすらと読める状態になっている。
- ・ 「漢字が読める」状態での音読の様子から、B 児の音読や意味理解の際に見られた課題の多くは、「漢字が読めない」ことから来ていたことがわかった。漢字が読めることで、その先の学習が、とてもスムーズになってきている。
- ・ 2 学期から単元に入る前の漢字の事前学習を支援学級で行った上で、国語は交流学級で行っているが、特に個別の配慮がなくても、問題なく参加できている。

D児について

(ア) 事前の状況

○読み書きにかかわる状況

【読み】

- ・あまり意欲的ではない。くり返すことを嫌う。
- ・拾い読みの状態が続いている。
- ・読み飛ばし、勝手読みなどが頻繁にみられる。
- ・初めて読む者については、読み終わったすぐ後に内容を聞いても、答えられなかったり間違ったりすることが多い。
- ・テストでは、1人で読むと問題の意味を取り違えていたり、わからなくて適当な答えを書いてしまったりしがちだが、問題を読み上げると正解がすぐに答えられることが多い。
- ・語彙は豊富、大人びた言葉もよく知っている。

【書き】

- ・ひらがなが全部書ける状態で入学してきたが、形が取れなかったり、書き順が違っていたりする。
- ・漢字については、お手本を見ただけでは線の構成や数をとらえられないことがよくある。
- ・マスの中に文字を収めることが難しい。左利き。

(イ) 具体的内容

☆「書き」の困難に対してのアプローチ(1年時のひらがなに対して)

○使用したアプリ



○おえかキロク

- ・動画を保存、再生できるアプリ。
- ・D児のひらがなの書き方を記録し、課題の把握と指導につなげた。



○ナゾルート

文字を構成する要素になる、色々な線をなぞり書きできる。きちんとなぞり書きができると、自転車や列車が通る。



○モジルート

文字をナゾルートと同じような方法でなぞり書きできる。なぞり終わったら線路や道路が黒い線に変化し、その文字の音が聞こえる。

○使用場面

- ・国語の時間

○具体的な使用状況

- ・おえかキログで、D児のひらがな書字の様子を記録



○「せ」

- ・できあがった文字は整って見えるが、書字の様子を再生すると、線の方向性やつながりが捉えられていないことがわかる。
- ※他にも書き終えた文字からはわからなかった課題がたくさん見えてきた。

- ・おえかキログの記録から

○D児の書きの苦手さの特徴への仮説

- ・線のつながりや方向性が、捉えられていないのではないか。
- ・構成要素の位置関係が、捉えられていないのではないか。

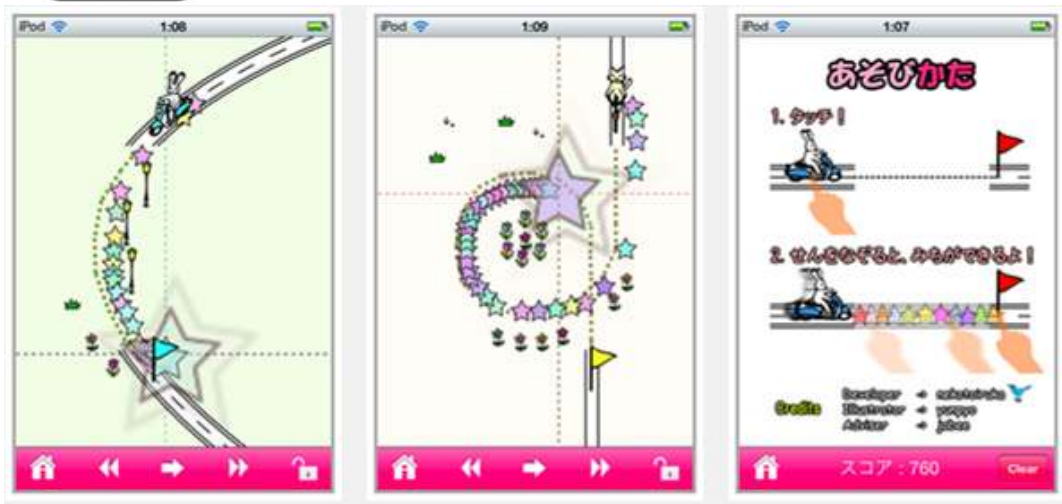
○D児の文字学習への手立て

- ・ガイドを手掛かりに、線を正しく追っていくことをくり返す。
- ・構成要素を、見るだけでなく別の感覚も使ってとらえ直していく。

・ ナゾルートを使用して



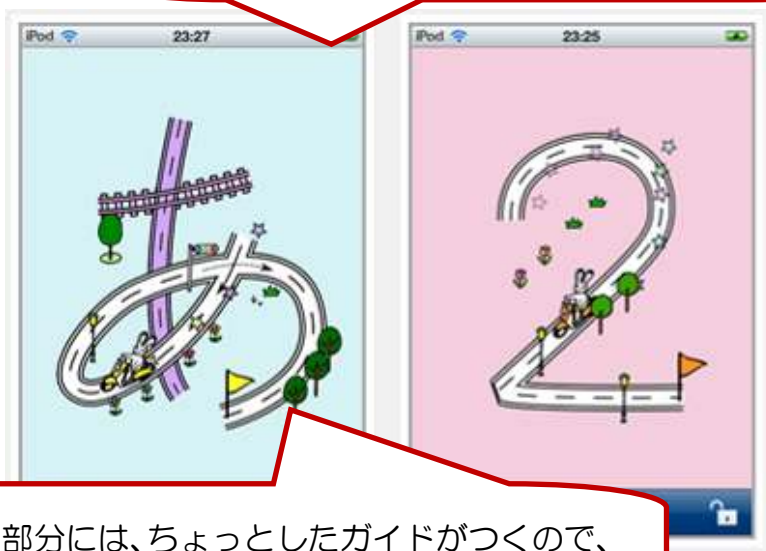
指でなぞって、道路や線路を作っていく。
正しくなぞらないと、乗り物が通らない



・ モジルートを使用して



書き順・線の方向性・重なりなどを意識づける
ことができる。



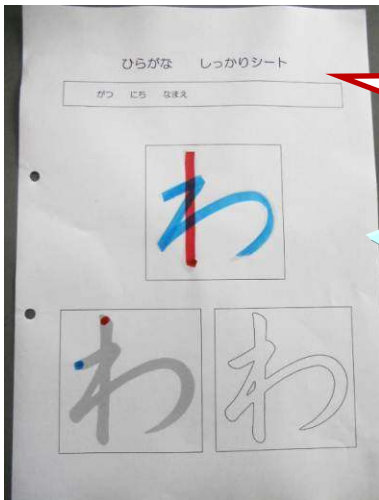
ポイントになる部分には、ちょっとしたガイドがつくので、
意識をもちやすい。

・ 他の感覚の利用

おえかキロクの動画で残すことにより、お手本を見ただけでは線の関係を捉えにくいことがわかったので、他の感覚の活用を考えた。

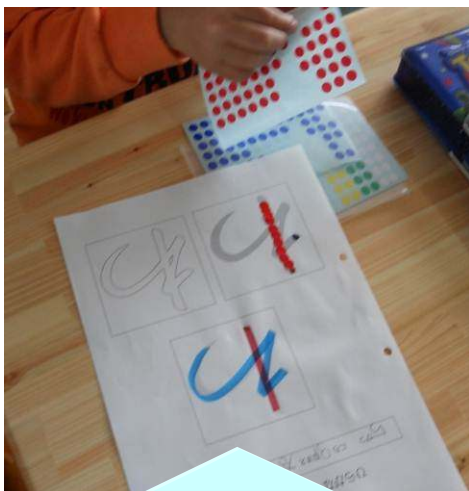
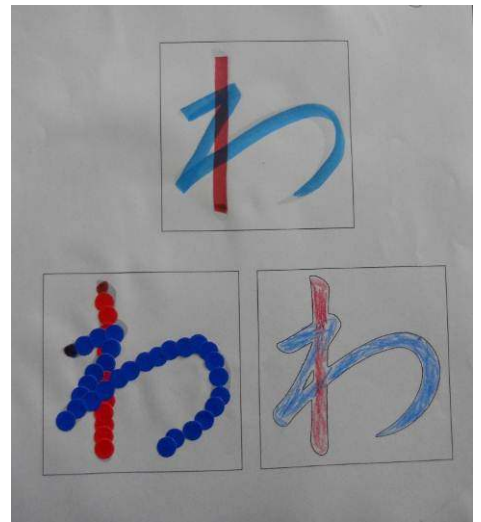
- ① 色分けしたり、触って確かめたり⇒ひらがなしっかりシート
- ② 音や意味と関連付けたり⇒市販のドリルを活用しながら

・ひらがなしっかりシート

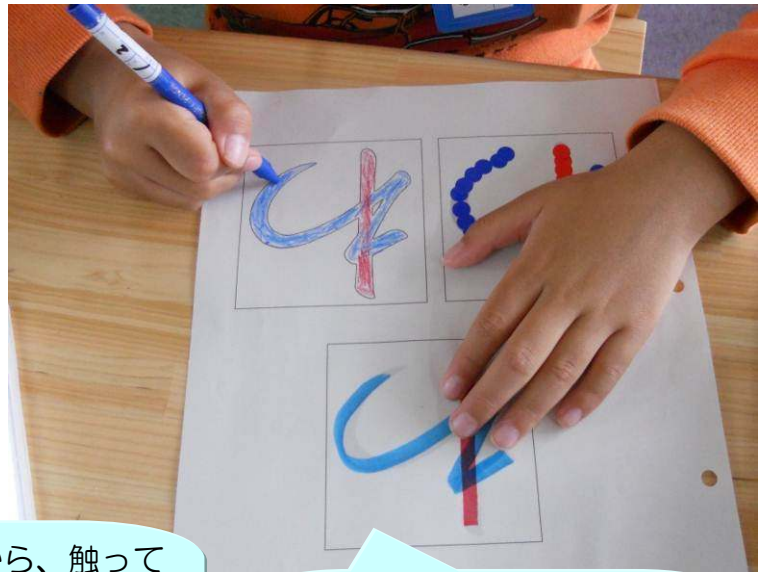


ひらがなしっかりシート

上のお手本には色をつけておく。
左のシールエリアは、スタートの場所にしるしをつけておく。

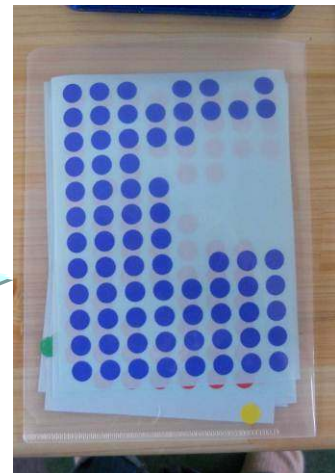


お手本と同じ色でシールをはってから、触って線のつながり確かめる。
スタート位置からはらせることで、線の方向性を意識づける。

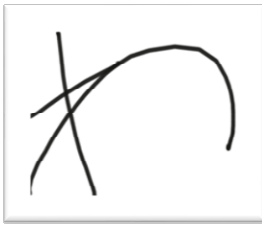


クーピーで、色を塗る。

使用するシールはB6のクリアファイルに入れておき、お手本を確認してから自分で選んではっていく。

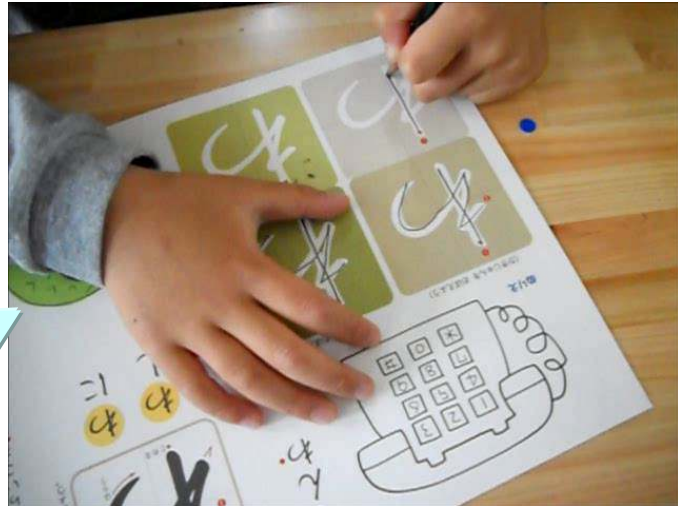


- ・市販ドリルを活用しながら



「わ」を3画にばらして書いていたので。

- ・音で、意味づけ
- 「ごぼう・2」



なぞりはできるが、下に線がない所に書くと、3画目の最後を内側に曲げられない

- ・音で、意味づけ
- 「かっくん・かっくん・くるうり・ただいま」



(ウ) 事後の変化：

- ・線の方向性やつなかりを、視覚・聴覚の刺激を入れながら確認できたことで、書字の状態が好転した。
 - ・乗り物が大好きな子なので、ナゾルート・モジルートには、集中して繰り返し取り組めた。
 - ・「道から落ちると車が通らない」というシステムは、Dさんにとってとても納得できるものだった。
 - ・DSの「ドラがな」も併用し、ほぼひらがなは正確に書けるようになってきた。
 - ・入学前に覚えていたひらがなは、かなりの割合で線の方向性やつなかりに覚え間違いがあったが、iPadを活用しての学習後に習得したカタカナや漢字では、線のつながりの捉えを間違えることがほとんどなかった。(方向性については、左利きのため、横線を右から引いてしまいがちな点が残っている)
- があることで、特殊音節の間違いや句読点のぬけなく、しあげることができた。
- ・つきっきりで一音ずつ大人に言ってもらいながら書くのではなく、自分でやりきることができるようになったため、見比べて間違えたら1人で消して直すこともできた。

☆「書き」の困難に対するアプローチ(2年時の漢字に対して)

○使用したアプリ



○楽しく学べる漢字シリーズ
練習のステージでは、線の始点・終点・方向性が一画ごとに表示される。



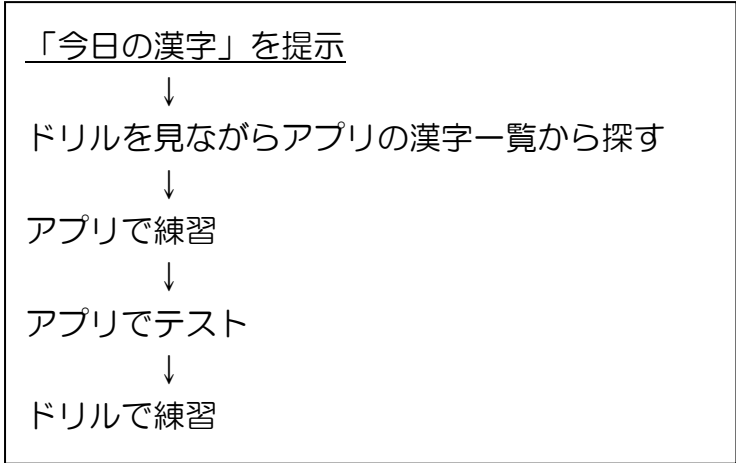
・一覧から漢字を選ぶことができる。
・音声の読み上げで熟語が確認できる。
・動画で書き順が確認できる。



・一画書くごとに、次の画の「始点・終点・方向性」が示される。

○使用場面
・国語の時間

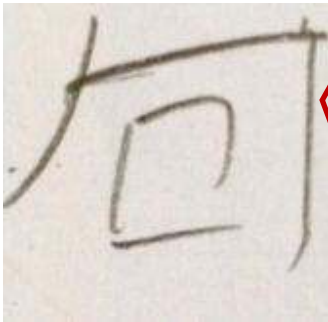
○具体的な使用状況



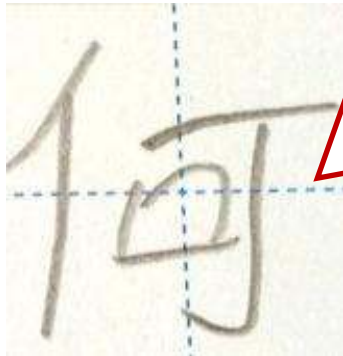
・テストステージ。
 ・間違うとその場で「間違いです」とアナウンスが聞こえる。
 ・どこで間違ったのかが、その場でわかる。



アプリで漢字をしっかりとらえなおしてから、ドリルに書き込んでの練習を行った。



形の説明を聞いて空書きをし、お手本を見ながら書いたもの



IPadで練習した後に書いたもの

(ウ) 事後の変化

- ・間違いにその場で気づいて修正できるため、間違い続けない。以前に比べて、正しく繰り返すことができやすくなっている。
- ・テストの場面で「間違いはどこか」をドリルを見て確認しようとする姿が見られた。
- ・自分で探して見つけ出すプロセスを踏むことでより正しい書き順や線の関係を意識づけることができると感じている。
- ・2年生になり、画数が多かったり線の関係が複雑だったりする漢字が急に増えている。混乱するだろうと予想していたが、「事」「教」といった漢字を、意外なほどスムーズに書けている。
- ・以前の「せ」のように反対から書いたり、線を不自然な場所で接いで書くことが、かなり減ってきているので、書いている途中で大きく混乱することが少なくなってきたのではないかと、感じている。

☆「読み」の困難に対してのアプローチ

○使用したアプリ



Paintone

- ・1つの画面に複数の音声がつけられる。
- ・テストやドリルに音声をはりつけるのに活用。

○使用場面

- ・国語の時間

○具体的な使用状況

テストを写真にとる。



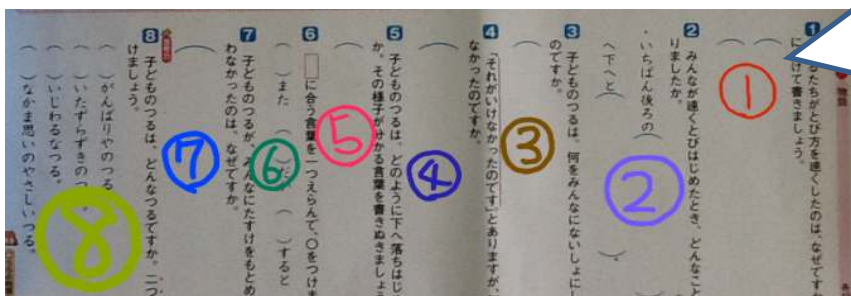
問題に音声をはりつける。



紙のテストと一緒に渡す



iPadで再生させながらテストに取り組む。



テスト用紙の上に
音のついたアイコン
を配置



手元のテスト用紙と同じ画面。
触るとその部分の読み上げが始まる。

- ・以前、ICレコーダーを使って同じことをしようと試みたが、レコーダー内に入っている情報を探すことにとっても時間がかかってしまった。
- ・iPad を使って手元のテストと同じ画像に音をつけることで、「今自分が取り組んでいる問題はどこか」がわかりやすいため、スムーズに取り組めた。

○「音の支援」の有効性を感じての広がりとして

☆「読み上げペンサトシくん」を使つての音読



・音声を録音したシールをペンでタッチすると、その内容を再生することができる。
・録音、再生が手軽。
・イヤホンで聞くこともできる。

※コムフレンド

<http://www.com-friend.co.jp/products/communication/yomiagepen.html>

○具体的な使用状況

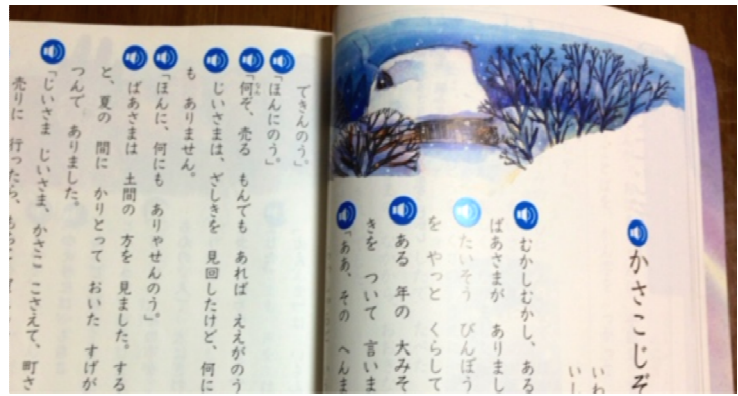
教科書にシールをはる。



シールごとに音声を録音する。



再生機を使って再生させながら音読の練習に取り組む。



・「サトシくん」を使って、再生

- ・そのあと、自分で読む。
- ・最初は指で追いながら。



・言い回しが難しい民話单元だったが、冬休み中に「サトシくん」を使っての読み練習をしてきて、3学期のはじめには、「サトシくん」がなくてもすらすら読めるようになっていた。

(ウ) 事後の変化

- ・音の手助けがあることで、安心して課題に取り組めた。
- ・一人でもやり切れることが、自信になっている。

・活用状況を観察していると、ただ聞いて考えるのではなく、「聞きながら目で追う」姿が見られた。

・音のイメージを持ちながら目で追うことで、読みやすさが支えられ、意味理解がスムーズになっている。

・音読の取り組みでは、音の支援を入れた練習に取り組んだことで、音をつけなくなってもすらすらと読むことができていた。

・音読カードに「上手になりました」

と書いてもらい、とても喜んでいて。

・「お手本を拡大する」

「用紙を工夫する」といった

視覚に関わる支援に比べ、

「音」を補ったり支えたりする手だてというのは、なかなか授業の中で生かせずにいた。

・一方で、ここで上げた事例の子ども達のように、「音」を意識した手だてが有効なケースもたくさんあると感じている。

・iPad やサトシくんのような手だては、手軽で使いやすいため、日常の学習の中で使い続けることが可能であり、今後も活用を続けていきたい。

5. 報告者の気づきとエビデンス

(ア) 報告者の気づき

○学びきる手立てとして有効だった

・「これがあればできる」という見通しをもってくり返す中で、学習の定着を図ることができた。

・手立てを持って「学びきる」体験を重ねることで、意欲や自信を支えることができた。

○学びやすさを支える手立てとして有効だった

・取り組み易く、続けやすい手立てを持つことで、くり返しを成立しやすくすることができた。

・家庭学習での活用も併せて行えたことで、より定着につながる学習方法としての活用ができた。

・視覚、聴覚、触覚と、多感覚を活用することで、従来の学習方法より情報を捉えやすく、定着につなげやすくすることができた。

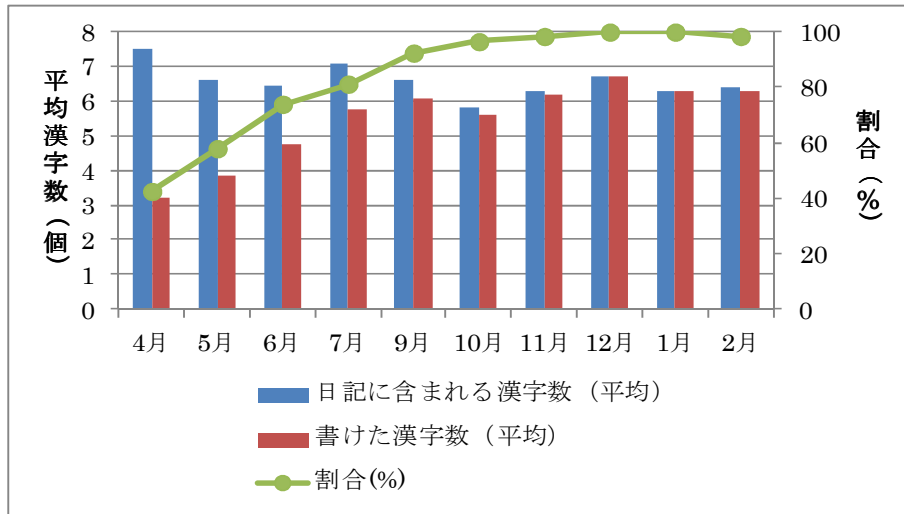
○学び方の特性の仮説へつなげる手立てとなった

・多様なアプローチのできる app を使い、「なぜ取り組みやすいか」「なぜ難しいか」を考える中で、従来の学習時に比べて多面的な見方から学び方の特性の仮説を立てることができ、効果的な指導につながった。

(イ) 気づきに関するエビデンス

B児のケース

○毎日書いている、連絡帳の振り返り日記からみる漢字の定着状況



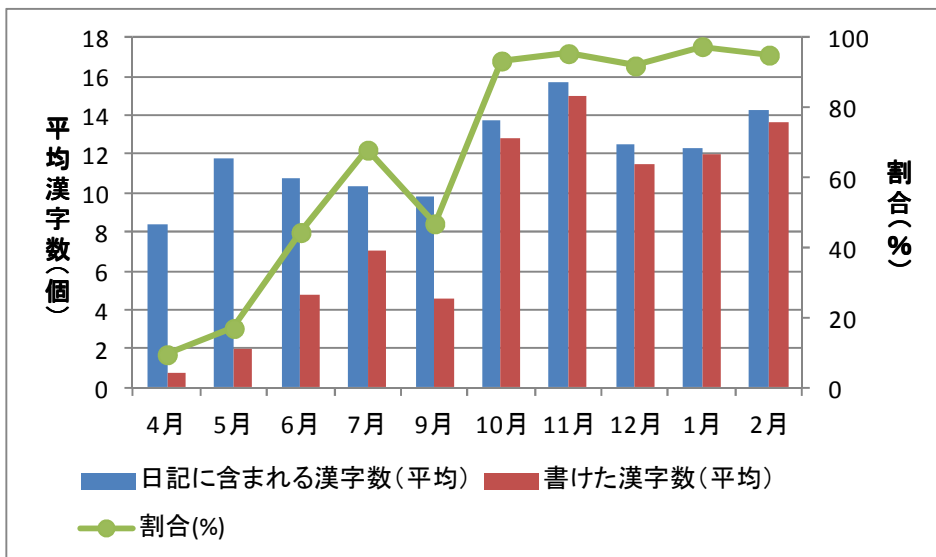
・4月、5月にかけての漢字のほとんどは「今日」と「算数」「国語」などの教科名。「今日、国語をがんばりました。」というような書き出しが多く、そこだけ漢字で書けていたが、毎日のように出てきている「楽しかった」「行きました」等はずっと書けなかった。

・漢字にするべき文字数は、6～7文字でほぼ横ばいだが、書けた漢字の割合は、上がってきている。

・日常的に良く使う同じような漢字だけでなく、「実験」「世界」「負けた」など、これまでほとんど使ったことのない漢字も、漢字で書いてくるようになってきている。

	漢字の平均文字数	書けた漢字数(平均)	割合(%)
4月	7.5	3.1875	42.5
5月	6.61	3.83	57.94251
6月	6.45	4.77	73.95349
7月	7.08	5.75	81.21469
9月	6.6	6.1	92.42424
10月	5.8	5.6	96.55172
11月	6.3	6.2	98.4127
12月	6.7	6.7	100
1月	6.3	6.3	100
2月	6.4	6.3	98.4375

○週末に宿題として書いてくる日記から見る漢字の定着状況



・振り返り日記では、4月でもほぼ書けている「今日」も、同時期の週末日記では書けないことが多かった。直す時「『今日』は書けるでしょう？」と言うと、「あっそうだった」と思い出して直せた。本人に聞くと「なんでかわかんけど家では思い出せんかった」と話していた。

	漢字の平均文字数	書けた漢字数(平均)	割合(%)
4月	8.4	0.8	9.52381
5月	11.75	2	17.02128
6月	10.8	4.8	44.44444
7月	10.3	7	67.96117
9月	9.8	4.6	46.93878
10月	13.7	12.8	93.43066
11月	15.7	15	95.5414
12月	12.5	11.5	92
1月	12.3	12	97.56098
2月	14.3	13.6	95.1049

・ほとんどひらがなしか使わないという状況が、個別指導を開始した3年時からも続いていてなかなか改善に向かわなかったのに、iPadでの介入をして以降、明らかに漢字使用の割合が上がってきている。

・以前は見られなかった、消して漢字に直した形跡もよく見られるようになったので聞いてみると、「これは漢字だと思ったけど思い出せなかったから、家の人に聞いて書いた」と話した。漢字に対する意識や意欲が高まっていると感じている。

○音読における熟語の読みの改善状況

☆「世界で一番やかましい音」の単元

・全文を音読し、最初に読めなかった熟語52個。

既習だが読めなかったもの

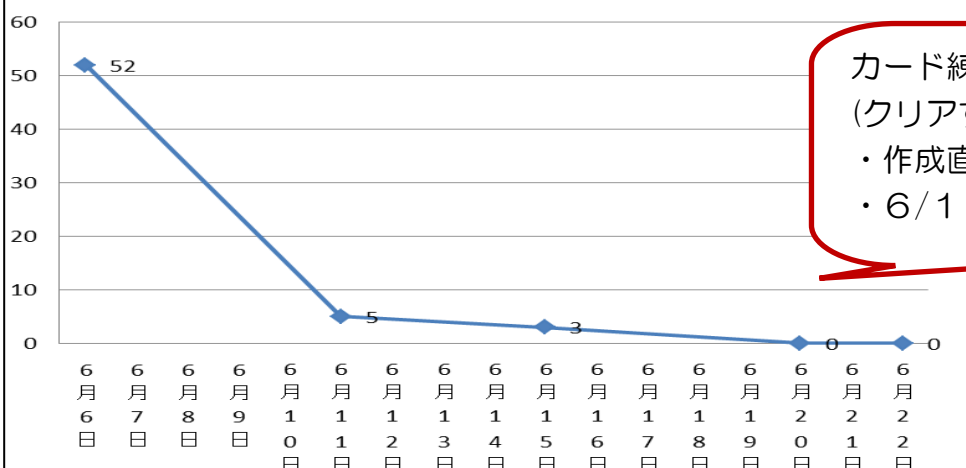
- ・都・開けば・集まる・歌・昼間・王子様
- ・六つ・大人・軍楽隊・不満・全員動員
- ・全部・戸・同時・何百万・何千万・実現
- ・最初・電報・伝書・間もなく・返事・正確
- ・何月・連中・悪気・近所・回りよう
- ・台なし・広場・集会場・注ぐ・極・以来・庭・指さす・気に入る・自まん
- ・歴史・時計・聞く・積む

新出漢字

電報・職場・賛成・現在・再開・耕す・志す・快い・群れる・歩む



全文音読で、読めなかった熟語の数



カード練習にかかった時間
(クリアするまで)

- ・作成直後⇒6分程度
- ・6/15日以降⇒3~4分

- ・ 6/6 に最初の音読をし、読めなかった52の熟語のカードを作成。

☆毎日の宿題で「カード練習+音読」に取り組む。

☆カード練習をした後、全文音読にルビなしで取り組んだ結果。

- ・ 6/11 → 読めなかった熟語5つ。
- ・ 6/15 → 読めなかった熟語3つ。
- ・ 6/20 → 読めなかった熟語0。

☆カード練習を行わずに全文音読

- ・ 6/22 → 読めなかった熟語0。

これまでは、単元の学習が終わった時点でも、ルビを消すと読めない熟語がかなりあったことを考えると、「カード作成の後、カード学習→音読を繰り返す」という手だては、B児にとって効果的であったと考えられる。

(ウ) 活動において特徴的なエピソード

B児について

- ・ 日記の中に、これまで見られなかった漢字がどんどん増えてきている。「終業式」「音楽集会」「班活動」といった行事についても、黒板やプリントを見て積極的に漢字を使う姿が見られた。
- ・ また、「思い出せないけどこれは漢字だな」と感じることも増えているようで、そうした際、周囲に聞いて漢字を書いてくるようになった。黒板のすみにA児の文字で漢字が書かれていることがよくあるので、「これはどうしたの?」と聞くと、「Bちゃんに聞かれたから教えてあげた」とのことだった。日常的にそうした意欲が高まっていることで、定着が進んできていると感じている。
- ・ 読める漢字が増えてきたことで、「わからん」と最初から丸投げせず、思い出そうとしたり、とりあえず熟語の中の読める漢字を声に出して考えたりする姿が見られるようになった。
- ・ 間違ったり忘れていても、「〇〇だよ」と言うと「ああそうだった!!」ということが増えた。
- ・ 先日の日記に「凧」という漢字を書いてきていた。「この字はどうしたの?」と聞くと、「教えてもらって書いた」と話していた。教室でも、手元にiPadがない時は、上級生に聞いて「陸上大会」「離任式」といった言葉を漢字で書くなど、「漢字を使いたい」という意欲の高まりを、随所で感じるようになってきている。

D児について

- ・ 「絵」という漢字に取り組んでいた際、アプリの練習をした後のテストステージで3画目を書き忘れる間違いをしていた。その場で「間違いです」とアナウンスが聞こえ、書いたものが消える。それを3回繰り返した後、4回目を書く際に2画目を書き終えたところでドリルのお手本を何度も見返して確認する姿が見られた。そののち、きちんと3画目を書いて、合格することができた。
- ・ そのままノートに練習していたら、おそらくは間違いに気づかないままいくつも書いてしまっていたと思われる。「間違いにその場で気づく」道があることで、確認して「間違い続けない」が保障されていると感じた。

・D 児にとっては苦手な学習だからこそ、こうした学び易さを支える手だてがあることで、意欲が継続すると感じている。

・これまでは音読カードには、いつも△が並んでいたが、「サトシくん」を使い始めてからしばらくしたころ、お父さんから「とても上手でした」というコメントを書いてもらって、嬉しそうに見せてくれた。「僕ねえ、上手に読めるよ」と話してくれている。